

北海道冬季災害ゼロ てんとう防止運動



STOP! 転倒災害

運動期間：平成28年12月1日～平成29年3月31日

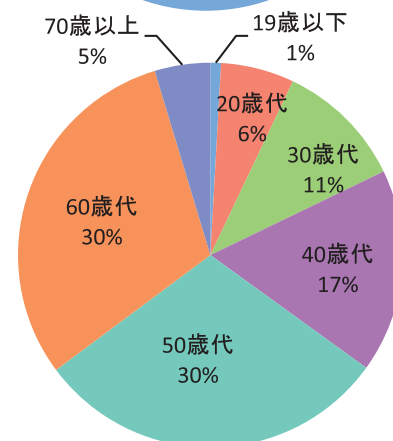
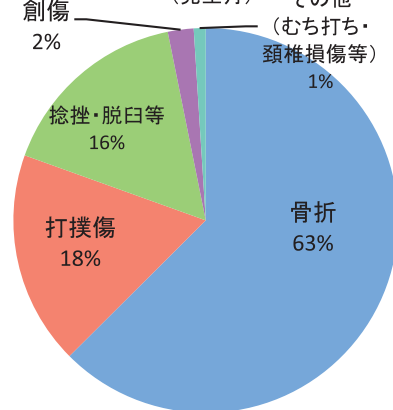
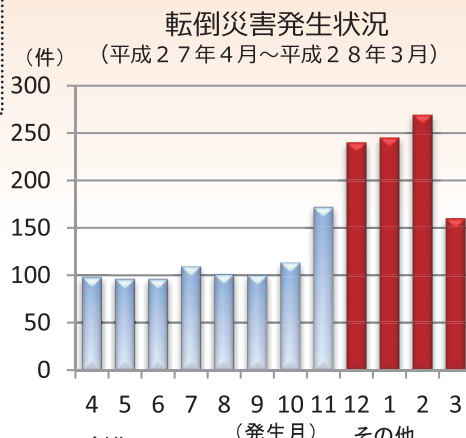
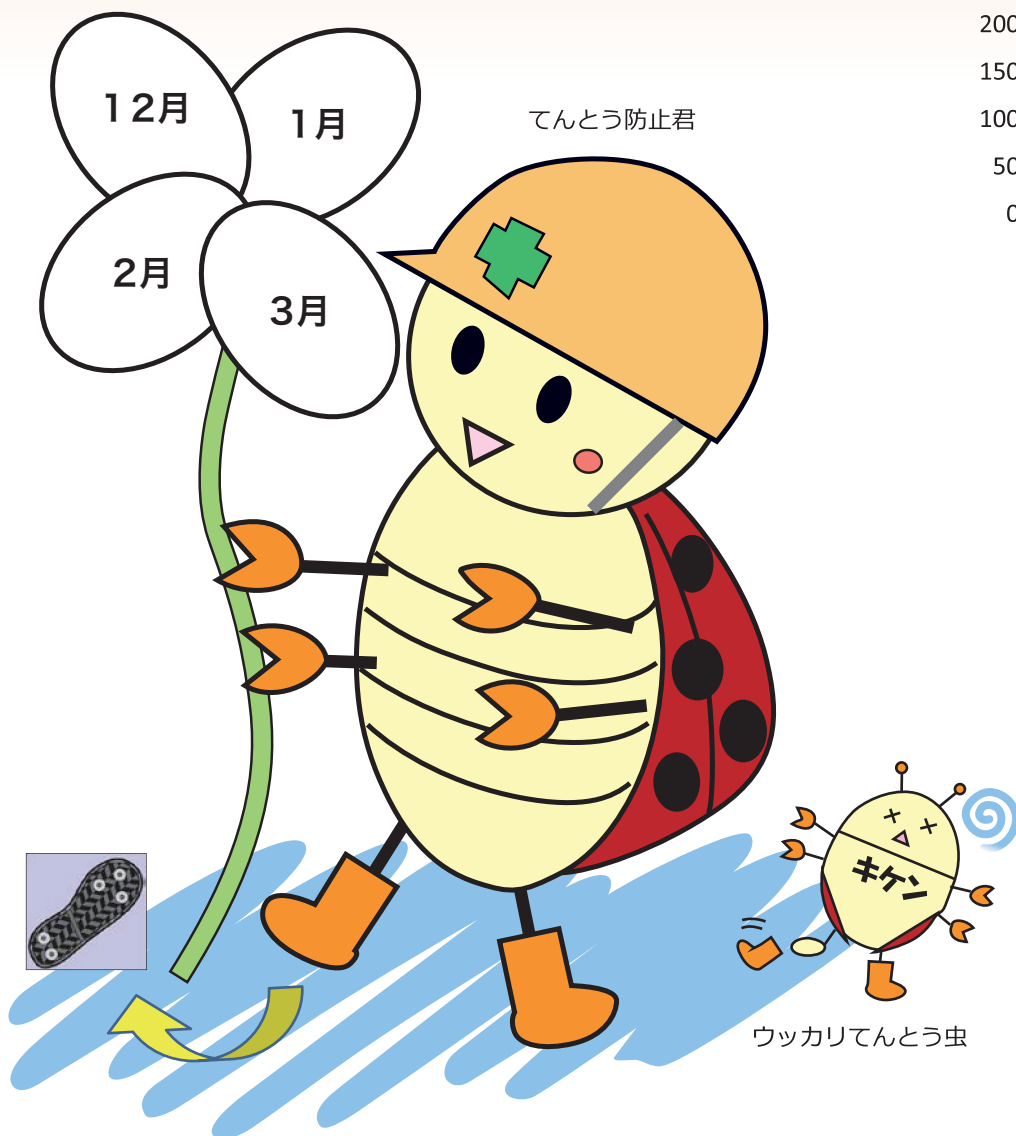
転倒災害ゼロを目指して取り組みましょう。

【運動の5Action】

- ① 経営トップの決意表明、安全衛生に関する宣言
- ② 中心となって取り組む管理者の選任、職場巡視の実施
- ③ 4S（5S）活動やKY活動、冬季危険ヒヤリマップ作成の推進
- ④ 冬季災害防止を中心とした作業手順書の整備、安全衛生教育の実施
- ⑤ 「転倒災害防止」「スリップによる交通労働災害防止」の重点的な活動の実施

咲かせよう！
「安全」のクローバー

災害ゼロを達成したら、達成月の葉を塗りつぶし、すべての葉が緑色になるように取り組みましょう！



資料：労働者死傷病報告（休業4日以上）による



厚生労働省北海道労働局

各労働基準監督署（支署）



『北海道冬季災害ゼロてんとう防止運動』実施要領

厚生労働省北海道労働局

北海道内における平成27年の休業4日以上労働災害による死傷者数は6,568人で、そのうち転倒による災害は1,797人と27.4%を占めています。

また、転倒災害のうち5割は12月、1月、2月、3月に発生しており、平成25年2月には転倒により頭部を強打し死亡した災害も発生しております。

北海道はこれから本格的な冬を迎え、特に雪や凍結による転倒災害の多発が懸念されるところです。

北海道労働局では、冬季災害防止対策のうち「転倒」に着目し、重点的に対策に取り組むことによって大幅に労働災害を減少させることを目標に、『北海道冬季災害ゼロてんとう防止運動』を展開しますので、一人ひとりの積極的な取組により、冬季の転倒災害を撲滅しましょう。

運動期間 : 平成28年12月1日から平成29年3月31日

実施事項 : 「運動の5 Action」

- 👤 経営トップの決意表明、安全衛生に関する宣言
- 👤 中心となって取り組む管理者の選任、職場巡視の実施
- 👤 4S(5S)活動やKY活動、冬季危険ヒヤリマップ作成の推進
- 👤 冬季災害防止を中心とした作業手順書の整備、安全衛生教育の実施
- 👤 「転倒災害」「スリップによる交通労働災害」の重点的な活動の実施

主唱者 : 北海道労働局 各労働基準監督署(支署)

協賛者 : (公社)北海道労働基準協会連合会

実施者 : 事業者及び労働者



【具体的な転倒災害防止対策(例)】

《屋外での転倒災害防止対策》

冬期間は凍結した路面で転倒し怪我をする災害が多く目立ちます。事業場内の駐車場や通路、また、通勤経路では次の対策を実施しましょう。

- 👤 事業場敷地内、駐車場、出入口、通勤経路等の滑り易い場所を確認し、**「危険マップ」を作成**する等により労働者に周知すること。
- 👤 靴は保温性が高く、かつ、滑りにくいものを使用すること。
- 👤 小さな歩幅で、靴の裏全体をつけ、「急がず、ゆっくり」歩くこと。
- 👤 通路等は凍結防止対策(融雪剤、砂の散布等)を講じること。
- 👤 屋外や屋外に通じる階段にはすべり止めを設けること。
- 👤 服やズボンのポケットに手を入れたまま歩行しないこと。また、両手に物を持って歩行しないこと。
- 👤 **初めて北海道の冬を経験する者**に対して、雪道の歩き方などの安全教育を行うこと。

《屋内での転倒災害防止対策》

水や油でぬれた床で滑って転倒したり、段差につまずいて転倒する災害が多く目立ちます。水のたまるところは水はけのよい床に改修し、油などの汚れは定期的な清掃により取り除くなどの対策が必要です。次の対策を実施しましょう。

- 👤 出入口などの滑りやすい場所は滑り止めの措置をとる。
- 👤 段差をできるだけなくするか、段差のある場所には「足元注意」の表示をする。
- 👤 床の油汚れや冷凍庫内の床の氷は取り除く。
- 👤 通路には物を置かない、物をはみ出させない。
- 👤 専用の滑りにくい履物を履く、靴の踵を踏まない。
- 👤 走らない、ポケットに手を入れたまま歩かない。
- 👤 決められた通路を通る。
- 👤 出入り口や曲がり角では歩行速度をゆるめ、対向する人の有無を確認する。
- 👤 歩くときは前後と左右の確認だけでなく、滑ったりつまずいたりしないように、いつも足元の確認を怠らないようにする。
- 👤 通路などの床面が水などで濡れているのを見つけたらすぐに拭く、濡れたままにしておかない。

駅構内、ビルなどに設置されているエスカレーターでは、歩くと振動による急停止や接触などによる転倒災害につながります。エスカレーターでは歩かないようにしましょう。

また、スマートフォン等を操作しながら歩く「ながら歩き」は、接触や躓きによる転倒災害の原因になるので、行わないようにしましょう。